

（ものがたり）
 100年前、権力に抗した
 一人の少女に、今私たちは
 何を感じるのか

「朝から晩まで働いても、満足
 にご飯が食べられない貧しい人た
 ち、一方では贅沢をしている人た
 ち……。この不公平な社会をなん
 とかよい社会にしたい……」

時は明治・大正末期から昭和初
 期の激動の時代。天皇の絶対的専
 制政治のもと、国民は「天皇の臣
 民」とされ、貧困と無権利状態に
 おかれていました。

千代子が東京女子大で学ぶ頃、
 稀代の悪法「治安維持法」が公布
 され思想言論弾圧がますます激し
 くなります。

千代子は、故郷の長野で製糸工
 場の大争議を通じ、労農党の浅野
 晃と知り合い、結婚。大争議を浅
 野とともに支援します。

そして日本共産党と共同戦線を
 組んだ労農党が初の総選挙で大躍
 進。その躍進を恐れた支配層は28
 年3月15日の大弾圧を加えます。
 千代子は検挙され激しい拷問を受
 け刑務所へ送られますが屈せず、
 獄中のリーダーとして侵略戦争に
 反対し、主権在民、ジェンダー平等
 の社会を目指して志を貫きました。

しかし、同志であり最愛の夫で
 ある浅野晃の変節と裏切りを知
 り、非人間的な刑務所での扱いも
 あつて千代子の身体と精神は徐々
 に蝕われていくのでした……。

1 弁当分け合う 心優しい千代子さん……

諏訪高女で土屋文明の薫陶を受けて育った伊藤千代子は、卒業後の代用教員時代、凶作や繭・生糸の暴落で弁当を持参出来ない児童を励まし、教室に残って弁当を分け合って食べていました。職員室にほとんど戻りませんでした。

2 『婦人論』読んで ジェンダー平等へのめざめ

「女が勉強して何にならずか」という風潮の中で、向学心に燃えた千代子は、諏訪高等女学校を目指します。仙台・尚綱女学校では自由・平等の新しい社会思潮にふれ、そして臨んだ東京女子大でベーベルの『婦人論』に出会い、「これだ」と感動した千代子は、郷里の友に書き送る……(1925年12月発信の手紙から)。

「女の人が覚める時、男子の催眠術から、
 そして自己の自己に対する催眠術から覚める時、
 どんなにすばらしい世の中が展かれて来るでしょう」

3 小林多喜二と伊藤千代子 — 時代が結んだ青春

1928(昭和3)年、日本で初めて25歳以上の男性のみの普通選挙が行われました。このとき、伊藤千代子は、北海道から出馬する労農党の候補者山本懸蔵の選挙立派資金を助立て、活動に参加していきました。

小樽では、待ちに待った小林多喜二らが「われらの山懸を迎えてたたかいの火ぶたが切られました。選挙応援の機会が巡ってきた多喜二は羊蹄山の麓へと吹雪をついて突き進みました…。「俺たちの運動は何代がかりだなあ」…(小林多喜二『東俱知安行』より)。

同時代に、小林多喜二と伊藤千代子は目に見えない糸で結ばれながら、社会変革への息吹を胸一杯に吸うのでした。

二人が、もし特高警察の弾圧で生を絶たれなければ、どんなに素晴らしい人生を切り拓いていったことだろう…。

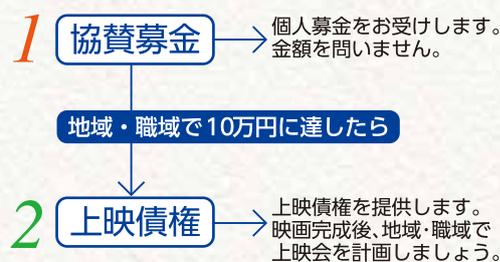


小林多喜二
(1903~1933年)



伊藤千代子
(1905~1929年)

製作支援2つのお願い 製作資金づくりを みなさんのご協力で行います



「協賛募金」と「上映債権」のお申し込み先

「映画製作を支援する会（略称・サポーターの会）」

〒277-0043 千葉県柏市南逆井2-24-36
 藤田廣登 気付

担当：藤田廣登 090-4527-1129
 mail:fujitahiro@outlook.com

FAX 04-7174-2028

送金先（郵便振替口座）00190-7-409200
 加入者名：伊藤千代子の会

●下記申込者には郵便振替用紙を送付します。

✂ 郵送の際の切り取り線

協賛募金・上映債権 申込書

郵便・FAXでお申し込みください。

お名前&団体名 団体様の場合は担当者様のお名前もお書き下さい。	担当者	<input type="checkbox"/> 個人協賛募金 円 拠出
		<input type="checkbox"/> 製作資金 1□ 10万円 拠出
ご住所	〒	
電話・FAX	TEL	Eメール

取扱団体